

軍事・歴史・政治・経済研究紙

MONTHLY DAITOH-NEWS

本紙の年間購読は本体3,000円+税です。

国際政治の中心舞台は中東にあり!

現代に反映する黙示録

『黙示録』と言え、新約聖書巻末の一書に当たる部分の第十六章である。この箇所には人間の行き着く先と思えるようなことが書かれており、人間と神が、既に大きな隔たりをもって、擦れ違いを行...

『黙示録』が書かれたのは、今から約千九百年前のことであるといわれている。しかし今日では、それが何であるか、解るような時代になった。何故ならば、太平洋戦争を振り返って見ても、大戦末期、広島と長崎にはその上空に、人類初の原子爆弾が投下された。そしてこれ...

新約聖書は旧約聖書を母体にして書かれたものであり、神が天地を創造し、人間を造ったのであるから、初めがあり、終があるという思考である。そして終があるならば、その終末に対して、必ず神の介入があるであろうと考えるのが、欧米人やアラブ人の考え方である。つまり『黙示録』は、終末観を思わせる大きな暗示が込められているものであるといえる。

しかし収量には限界があり、均衡や不均衡の現象が生ずる。あるいは相補もしくは相殺の生死増減の二面性があり、こうした断片的で未端的な現象を捕え、諸法則を編み出したり原理や原則といわれたいものを発見した。そしてこうしたものを基盤において、自然界を知りうる解明ができたと思ふ。その上に胡座をかいてしまった。しかしこうした思い上がりは、盲人のそれではなかった。

まり、この川の東側の日の出の方から、アジアの軍勢が押し寄せ、道を備えるために、この川が涸れたというのである。こうした考え方は、欧米人やアラブ人にとって、幼い時から聖書(Enigmas)ノブライ語でメギドの丘の意)は存在し、新約聖書ヨハネ黙示録では、神とサタンとの最終戦争の場所として、これを世界の紛争地域の禍根としているのである。そしてここは、国際政治の大舞台でもある。

旧約聖書とユダヤ教

(その二十九) イオンド大学教授 曾川和翁



イスラエル軍に破壊されたパレスチナ人の家屋家屋

急性中毒では悪心・嘔吐・眩暈を生じ、昏睡・呼吸麻痺に陥るが、慢性中毒では神経・精神症状が強く、阿片を渴望し、与えないと禁断現象を起す、厄介な代物である。そして精神的には強い暗示性を持つ。

徳川時代キリスト教は禁制の憂き目にあった。そして非合法的な地下活動を開始する。こうした信仰者を切支丹と言った。切支丹信仰は、デウスを最高神とする信仰で、それは天にあって、宇宙を主宰する神、デウスへの信仰であり、デウスの御掟をそむく事を戒める信仰であった。デウスは天帝とも云われるが、仏教では帝釈天を意味する。

この宗教は、天文十八年(一五四九)イエズス会の修道士フランシスコ・デ・ザビエルらが日本に伝えたカトリック教で、その信徒は南蛮宗と呼ばれた。



九州科学技術研究所 URL http://www3.ocn.ne.jp/saigouha/

世界恐慌の前触れ(85)

資本主義経済の総本山であるアメリカとしては、日本を含む、中国や東南アジア諸国は確かに商品や資本の市場と見ているが、それ以上に政治的軍事的価値の低い出せる地域ではないというところを分析済みなのである。そしてアメリカの根柢にある思想は、アジアの面倒な軍事問題を含む小競り合いは、日本に任せればよいという考えが浸透しているよう...

しかしこれは肝心な真相を見失った近視眼的な考え方である。日本がこれまで順調な経済発展の軌道に乗り、かくもこうまで経済発展を遂げることができた最大の理由は、日本が建前には平和国家を自称し、「平和」という高価な平時路線に夕夕乗りを決め込んだことだった。その夕夕乗りの最たるものが、朝鮮戦争であり、ベトナム戦争でなかったか。